

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300148	事業の開始年月日	平成25年8月1日	
		指定年月日	平成25年8月1日	
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社			
事業所名	愛の家グループホーム小田原久野			
所在地	(250-0055)			
	神奈川県小田原市久野 169-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成27年7月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月18日	

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp/IDetails.aspx?IGNO=ST1492300148&SVCD=320&THN0=14206>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症対応型共同生活介護を運営するにあたり、スタッフ一人一人が認知症を理解し、その人の気持ちをしっかり受け止め、その人の気持ちになり、その人らしい生活ができるようお手伝いいたします。小田原久野ではスタッフの呼び名をケアスタッフではなくライフサポートとしております。ライフサポートのライフの意味に生活、人生、命の意味があり、その一つ一つの言葉に対してスタッフがサポーターもしくはサポートできるスタッフであってほしいとの思いでライフサポーターとしております。入居者様のできる事をみつけできない事だけを手伝う認知症ケアに一番大切なことができるようにと考え願っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成27年8月25日	評価機関 評価決定日	平成27年9月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

大雄山線の井細田駅で降り、川沿の道を10分歩いた所に位置しています。川を隔てた目の前には小田原市民病院があります。コンビニやそば屋などもあり田舎ののどかさ、生活面の便利さが備わった場所です。

<優れている点>

小田原久野の特徴として、集団のレクレーションよりも個別ケアに力を入れています。職員と入居者での散歩、買い物、趣味などを通し、職員への信頼が深まり、入居者の自信にも繋がっています。全職員ともライフケアサポーターである、という自覚のもと「待つ介護」を徹底し、入居者の自立と自律を高めています。医師の診断のもと、全入居者とも精神薬、眠剤の使用はありません。職員の離職が大変少なく、管理者と職員の意志疎通がうまくいっており、お互いへの感謝の言葉が多く聞えてきます。

<工夫点>

職員の中にアロマセラピーの有資格者がいて、全入居者の手足をケアしてスキンケアも深まり大好評です。地域交流を広めようと、こちらから学校に出向き、入居者が朝会(音楽会)に出席する機会を得ています。さらにホームからも雑巾をお土産に持って行くなど、今後の連携への努力をしています。法人全体で「愛の家バスツアー」を企画し、法人内の他グループホームの見学に行く機会も設けています。他のホーム職員が発案した牛乳パック体操、棒体操などをみて良い刺激をうけ、職員のモチベーションに繋がっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛の家グループホーム小田原久野
ユニット名	小田笑城

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある
	<input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/> 3, たまにある
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/> 3, たまに
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている
	<input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない
	<input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会議等で理念の唱和をしていると共に、2～3月にあるスタッフの実践者研修にて、会社の理念について理解を深める機会がありました。	法人全体の理念は玄関にあります。事業所独自には全職員が「ライフサポーターである」という自覚を持ち、入居者ができることは手を出さずに「待つケア」を徹底しています。職員は折あるごとに「ライフサポーターだよね」と振り返り、確認しあっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	社協からボランティアの要請があり、受け入れや見学等や積極的であるが、日常的ではありません。	社会福祉協議会の紹介で、買い物、庭掃除、カラオケ、傾聴ボランティアが来てくれます。自治会の川の清掃に管理者が出席しています。地域の小学校の朝会（音楽会）に入居者が出席し、お礼に雑巾をもっていき、連携を保つ努力をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて、会社の研修報告や事例検討の発表など、取り組みを発信しています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	推進会議を有意義にするために、ホームで評価しています。	2ヵ月に1度開催し、地域包括職員、オーナー、家族、管理者と職員で実施しています。特徴である個別ケアの実演、薬の管理、職員の休憩場所などを公開し、意見を貰っています。国勢調査への協力、介護保険負担割合の話など、よい機会にもなっています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ユニットとしては実施できておりません。	市役所内に社内報を置いてもらっています。市からの委託で、交流室で認知症サポーター研修を管理者が講師となり、実施しています。市、地域包括の主催でグループホームを走ってつなぐラン友の会が3日間あり、職員と入居者が一緒に走っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間のみ、入り口ドアの施錠をしておりますが、その他の時間は施錠していません。	法人内に「身体拘束廃止推進委員会」があり、資料、情報は流れてきます。それに基づき、管理者は適宜職員に注意を呼びかけています。居室の窓は家族に了解を得て、ロックをしています。玄関、1、2階のユニット入り口は、夜間のみ施錠しています。玄関はセンサーと音で感知できます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議や研修にて共有と防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	該当者がいない為、周知していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が契約等を担当していますので、ユニットリーダーは行っていません。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置や、ケアプランについて話し合う時などにご意見を頂き、反映に努めております。	医師の判断のもと認知症の薬を減薬、断薬することで安定した例があり、家族から感謝されています。こたつに入りたいと言う希望から、冬はリビングの窓際にこたつを置き、叶えています。庭に桜の木を植えて、花見したいという希望も検討中です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議を毎月1回開き、情報を共有しています。 半年に1回、個人面談も実施し、意見を聞く時間を設けています。	法人主催の「愛の家バスツアー」に職員が出席し、他ホームの棒体操、牛乳パック体操などをみて職員のモチベーションが上がっています。入居者の風呂はひとりだという希望には、職員は浴槽の湯張りだけで見守る意見がでて、慎重に勧めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ自身に目標を設定してもらったり、業務担当をつけ、責任がもてる環境を作っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ここ最近からですが、スタッフ用の指導（アドバイス）メモを作成し、成長などを個々で見るようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ホームに入居中の入居者様の、以前のデイサービスの職員と情報交換を密にしようと、見学会を開きました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ストレスを与えないように、信頼関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ユニット前にスタッフボードを設置し、顔と名前を覚えてもらえるように工夫しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアの内容や、面会時に本人、家族に交って話し合うように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事に参加してもらえる関係と環境作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々、寄り添える努力をしていますが、4月～6月は特に事例検討を通して、深く関わる機会がありました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	交流のある方とも面会時に話す時間を持つように努め、また来て頂けるよう、声をかけています。	在宅時に市民会館のサークルに出席していた人が、入居後も家族の付き添いで続けています。カラオケのボランティアさんと、偶然に入居者の知り合いで双方が喜んでいます。以前通っていたデイサービスの人が会いに来てくれるなど、関係は保たれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者、個々のコミュニケーション方法をスタッフは理解し、悪化しないように取り持っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居された利用者の面会や、以前いたデイサービスに行き、現在の入居者の様子を伝えにいています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の生活歴を基本に、その人らしい生活を送れるように情報を集めています。	家で食べていたカレーライスをもう一度食べたい、と言う希望に職員が家まで送り、カレーを作って食べたり、居室で花の本を読むのが好きな人が職員が行くと花をくれたり、話しが弾み談笑したり、個々の楽しみを職員は大事にしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴の大切さを家族にしっかり説明し、情報交換がしやすい環境を作れるように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメント力を身につけられるよう研修を行う予定です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議などで情報交換を密にしています。	夜勤者もモニタリング用紙に気がついた事を記載したり、全員が書き込む事で、担当者以外の目線が入る仕組みになっています。食欲が落ちてきたので、おにぎりにして様子を見る、入れ歯の具合はどうか？など個々に適したケアプランになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日報や記録の重要性について、会議などで話し合い、入居者の情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問看護や訪問歯科、訪問診療医と情報共有しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	社協より、物品の寄付などを受けております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望があった時に契約して頂いております。	本人・家族が希望する医療機関で受診できるよう支援しています。通院は家族が同行し、困難な場合は職員が同行することもあります。事業所から医療機関へ手紙やFAXで情報提供し、連携を図っています。協力医は月2回、歯科医は週1回の訪問診療があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪看ノートを活用し、コメントし合っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者の状態に合わせて、必要な時に話し合いの場を設けております。	入居時に「重度化した場合の対応にかかる指針(看取り介護に係る指針)」について、本人・家族に説明していません。現在対象となる利用者はいませんが、重度化した利用者が1日でも長くホームで生活できるよう、全体会議の中で話し合うこともあります。	今後利用者の重度化に伴い、事業所での看取りの要望が増える事が予想されます。終末期ケアのあり方についてミーティングや勉強会を通して全職員の意志の統一を図っておく事が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	最近、AEDの使い方の研修ができていないので計画しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練を1年に2回実施しています。	消防計画を作成し、消防署員の協力を得て、年2回(1回は夜間想定)消防訓練(消火・通報・避難・誘導)を実施しています。経験不足の職員もいるので、年4回の訓練を企画し、災害グッズの点検、充実を心がけています。2・3日分の食料の備蓄があります。	様々な災害を想定しての避難訓練や、地域住民との協力体制を築いていくことが期待されます。災害時に備えた備品の充実も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別ケアの実施に努めています。	利用者の誇りやプライバシーを守るため、職員同士で申し送りをする際は、台所奥の視線が届かない場所で、部屋番号で伝えています。収集癖の人も居て、トイレトペーパーや植木鉢の置き場を、さりげなく工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	要望などに傾聴しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の状態やペースが変化した時は、業務の見直しをしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ネイルボラや、お化粧するレクを計画したり、実施しております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ミキサー食の方も盛り付け方に工夫しております。	法人の栄養士が献立を作り、調理専門の職員が調理しています。みんなでピザを手作りしたり、流しそうめん、職員手作りのケーキバイキングなどの楽しみもあります。洗い物やジャガイモの皮むきなど、タイミングに注意ながら手伝ってもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別ケアに努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科からアドバイスをもらい、実施しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立、羞恥心に配慮し、支援しています	利用者一人ひとりの力を活かし、出来ない所だけ手伝いながら、身体機能の向上を目指した支援をしています。失敗した時は、さりげなくベッドに下着を置いておくなど、自尊心に配慮しながら、自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	特にしていません		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一応日時は設定していますが、要望などに対応しています。	週2回の入浴を楽しんでいます。一応曜日や時間は決めています、本人の希望に合わせて、柔軟に対応しています。入浴を嫌がる時はスタッフを替えたり、アロマグッズや照明を浴室に入れ、おしゃれな雰囲気にして誘うなどの工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人のペースに合わせてたり、安眠できるような体位調整をしております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師と連携を図り、実施できています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ケアできている利用者、まだ出来ない利用者があり、差があります。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別レクの計画、実施しております	事業所の周辺の散歩やコンビニエンスストアへの買い物、ボランティアの協力で小田原城址公園やシティーモール、桜の花見へ車で出かけています。ジャズを聞きに行くなど一人ひとりの希望にそって戸外へ出る機会を作るよう、個別の外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の同意のもと、ご自分でお金を所持されている方が2名おります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者が電話したいと思った時は、できる体制になっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	景観を大切にし、ある程度死角も作り、リラックスできる場所をつくれるように努めております。	リビングにはテーブル、ソファ、テレビが置かれ、大きな窓から広い庭に出る事ができます。庭の花壇には茄子・アスパラ・大葉などの野菜を育てています。飾り棚の陰や廊下の突き当たりの死角、庭に椅子を置き、利用者が一人の時間を過ごしたい時に休めるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	棚やテーブルのレイアウトを入居者の状態に合わせて変更しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	転倒が多かった入居者には、家族と相談してタンスなどの設置を提案しています。	居室にはエアコン・クローゼットが備え付けてあります。ベッド・タンスなど使い慣れた物を持ち込み、家族と相談しながら配置をしています。本人の手作りのテーブルや椅子を置いたり、自作の手芸の作品を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要に応じて席も変更したりと努めています。		

事業所名	愛の家グループホーム小田原久野
ユニット名	かまぼこ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/>	1, 毎日ある
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3. たまにある
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族と
	<input type="checkbox"/>	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	3. 家族の1/3くらいと
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ毎日のように
	<input type="checkbox"/>	2, 数日に1回程度ある
	<input type="checkbox"/>	3. たまに
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/>	1, 大いに増えている
	<input type="checkbox"/>	2, 少しずつ増えている
	<input type="checkbox"/>	3. あまり増えていない
	<input type="checkbox"/>	4. 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての職員が
	<input type="checkbox"/>	2, 職員の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 職員の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="checkbox"/>	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/>	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="checkbox"/>	2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="checkbox"/>	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実践できていると思う		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域包括・社協とも連携がはかれている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議にて報告		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	都度、実施し、取り組んでいる		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	研修に参加		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間、施錠・窓の施錠をしているが、都度説明している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	実施できている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対象者おらず不十分		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ホーム長にて説明されている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議などで反映されている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議・全体会議で話し合っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	外部研修にも参加し、出来ていると思う		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時の教育、その後のフォローも行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域交流時に実践		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ホームのやり方を押しつけず、各自の主張を反映している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の気持ちに立ち、実践している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の要望を汲み取り、実践している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が「面倒を見てやっている」と思い違いをしないように教育している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と協力し支えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	サークルに出席したり継続している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他者への中傷がひどい利用者もいても嫌わら者とならぬよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居先に訪問したりしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の“その時置かれている状況”を第一に考えている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	別途アセスメントを取り把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	細かくアセスメントを取り直し、共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現場からのモニタリングを参考にし、計画をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録を元に、効果をうかがっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズに対して早期対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣施設に散歩、ドライブなどに行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	契約ありきで、強制ではないと伝えている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問ナースにも積極的に関わって貰い、助言を貰っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム長が実施し、長期入院は発生していない		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医の意見を元にし、ご家族の意向も含めて実施している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	連絡網などで連携をしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害グッズを設け、対策に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別ケアを第一に考えている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	スタッフで決めてしまわず、本人の主許を聞き取るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時の状況に合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	スタッフが“介助にラク”なものは選ばずに支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	努めてはいるが、主張が強い利用者には無理強いしていない		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	就寝前のみが大半		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	現状維持的に考えてしまっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	薬に頼りがち		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	本人の趣向を第一に考え、設定している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ゆっくり穏やかに過ごせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	飲んでいる認知症薬への理解は深い		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個別的には実施できていない		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	閉じ込めるようにはしていないが、その日の希望は難しい		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	数名は所持しているが、基本的には管理されている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が望めば、配慮している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔さ、整頓を心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食席を工夫したりし、実践している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	音楽・ラジオを使ったりしている 散らかったものも”本人の部屋”を念頭に置いている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	スタッフ主導で勝手に片付けたりはしていない		

平成27年度

目標達成計画

事業所名 小田原久野

作成日： 平成 27年 9月 18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現状火災想定訓練での訓練は実施できているが、実際起こりうる災害は多種多様で、特に地震は日頃より頻発しており、今後地震想定での訓練を実施する。	地震想定訓練を実施する。	年2回の火災訓練のみではなく、地震想定訓練もおこなう。	12ヶ月
2	33	入居時家族には重度化や終末期の方針を伝えているが、スタッフへの勉強会はできておらず、現状看取りの要望に充分に応えられ状況ではない。	終末期ケアを理解し、全職員の意識の統一を図る。	<ul style="list-style-type: none"> • 毎年の年間研修計画に重度化や終末期ケアの研修を取り入れる。 • 終末期等の外部研修に参加する。 	12ヶ月
3	49	日常的な外出支援が少なく、家族よりも外出してほしいとの要望も聞かれている。	外出頻度が増える。	外出要望を聞き取り、希望を持たれている方から実施する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月